

観天 望気

森から拓く新しい未来

王子グループは「木を使うものには、木を植える義務がある」という理念のもと、100年以上にわたり森づくり・紙づくりをおこなってきた。現在、社有林は世界に約64万畝、国内は約19万畝と日本の民間企業で最大級の山林を保持し、生産林と環境保全林のゾーニングによる持続可能な森林経営を推進している。

林業の現場では、育苗・育林の効率化やスマート林業などの技術革新を進めるとともに、紙づくりの技術を基盤に、環境配慮型パッケージやバイオエタノール、半導体材料のフォトレジストといった木質バイオマス分野で、森林の新たな可能性を切り拓く取り組みに挑戦している。2026年1月には、ヨーロッパのオーストロセル社がグループに加わった。バイオ化学品に使用される特殊なパルプを製造し、その過程で出る副産物からバイオ燃料を生産する同社の「循環型廃棄物ゼロモデル」を事業の中核の一つに据え、王子グループは今後も森林資源の価値を最大限まで活用し、カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー社会の実現に貢献していく。

近年、生物多様性保全や水源涵養^{かんよう}など、木材生産以外の森林の多面的機能にも注目が集まり、これまで十分に評価されてこなかった森林の価値が見直されている。こうした機能を経済価値として会計制度に織り込む「自然資本会計」の時代をめざし、私たちは「森の価値見える化プロジェクト」を立ち上げ、北海道猿払村の社有林で、大学や海外スタートアップ企業と連携して森林の価値の定量評価を進めている。自然資本会計を推進する国際的な枠組みへの参画を通じて、国際ルール形成にも積極的にかかわり、ネイチャーポジティブな社会の実現に日本の声が反映されることをめざしている。

森林を巡る状況は、目まぐるしいスピードで変化している。産官学が力を合わせ、現場の知恵と最新技術、政策や制度設計を有機的に結びつけていくことが不可欠だ。ともに知恵を出し合い、豊かな森林資源を持つ日本のよりよい未来を築いていきたい。



磯野 裕之

王子ホールディングス株式会社
代表取締役 社長執行役員 CEO

いその ひろゆき

海外事業展開に貢献後、2022年より現職。「森林を健全に育て、その森林資源を活かした製品を創造し、社会に届けることで、希望あふれる地球の未来の実現に向け、時代を動かしていく」をパーパス(存在意義)に掲げ、持続可能な森林管理が社会に重要な役割を果たすことを信念とした経営を実践。